

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

| | | | | | |
|------|-------------------------|-----|--------------|-------------------|--|
| 法人名 | 社会福祉法人 しおかぜ | 代表者 | 理事長 三宅 富之 | 法人・ 事業所 の特徴 | 社会福祉法人しおかぜは、特養・ショートステイ・デイサービス・訪問介護・小規模多機能や認定こども園と子供から高齢者まで、幅広く生活を支援することができます。小規模多機能では、認知症高齢者の支援に力を入れており、軽度から重度の方まで様々な状態の方に利用して頂いています |
| 事業所名 | 小規模多機能ホーム やすらぎの家児島駅前 | 管理者 | 立石 裕子 | | |

| | | | | | | | | | | |
|-----|-------|----------|-----------|-----|-------|------------|-------|-------|-----|----|
| 出席者 | 市町村職員 | 知見を有するもの | 地域住民・地域団体 | 利用者 | 利用者家族 | 地域包括支援センター | 近隣事業所 | 事業所職員 | その他 | 合計 |
| | 人 | 人 | 1人 | 人 | 1人 | 1人 | 2人 | 2人 | 人 | 7人 |

| 項目 | 前回の改善計画 | 前回の改善計画に対する取り組み・結果 | 意見 | 今回の改善計画 |
|-------------------------|---|---|---|---|
| A. 事業所自己評価の確認 | ・毎月の会議の項目にサービス評価全体の確認ができる項目を追加し、取り組みが確認できるようにしていく | 毎月会議にて、全職員と話し合いが出来た。毎月確認する事で、より意識出来る様になり、更に改善点を見つける事も出来た。 | 職員の振り返りができる良い機会でもある | 現在の形態を継続し、毎月のやすらぎ会議で取り組みについて確認を行い、改善計画を常に意識出来るようにする。 |
| B. 事業所のしつらえ・環境 | ・玄関付近の花壇に多年草等の花を植えてみる ・ウェルカムボードを完成する | 寄せ植えを置いたり、施設周りに種を蒔く等、玄関先が明るくなった。ボードは上手く設置できず、玄関内に飾っている。 | 関先にお花があるのは、明るくきちんとしていると印象を受ける。 | 年間を通し花を植えたり、水やりをご利用者様の役割として一緒にする。 ボードは玄関外に設置する。 アロマ等で五感を刺激してみる。 |
| C. 事業所と地域のかかわり | ・月1回のゴミ拾いを実施 ・小地域ケア会議で情報発信ができるか、検討する | ゴミ拾いはたまにで積極的に取り組めていない。 小地域ケア会議は参加しているが、発信はしていない。 | 秋祭りを実施していたが、あまり交流の場になっていない。 秋頃、介護予防教室を実施するのはどうでしょうか？ | 散歩を兼ね引き続きゴミ拾い実施。 目先を変え、近隣施設の子供達を招き交流する機会を作ってみる。 介護予防教室を実施する。 |
| D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み | ・時候の良い時は、施設周辺の散歩をしたり、外出の機会を多く持てる様に意識して支援する | 行事の外出は予定通り実施出来た。日常生活の中での施設周辺の散歩は、あまり出来ていない。時間等の工夫をしていく。 | 個人情報の事も有り、難しい面がある。 | 時間等の工夫をして、日常生活の中で公共施設に出向いたり、施設周辺の散歩の機会を多く持てる様に支援する。 |
| E. 運営推進会議を活かした取組み | ・現状の形式を維持し、地域と一緒に取りくんでいけないか、検討していく | 資料を準備し状況を詳細にお伝えしている。 | 事業所の様子はよく伝わっている | 引き続き現状の形式を維持し、情報交換しながら、地域と協働して実施できる事はないか、検討する。 |
| F. 事業所の防災・災害対策 | ・現実的な避難訓練の検討と実施 ・緊急連絡網の確認と連絡の試験実施 | 緊急連絡網を試験実施する。漏れが確認出来たり、事前に伝えていたが想像以上に時間がかかる等、新たな改善点も見えた。 | 令和2年1月9日に地域の自主防災組織の立ち上げ | 年に1回、緊急連絡網の連絡の試験実施。地域の避難訓練にも出来る範囲で参加させて頂く。(今年度声掛け頂いたが調整つかず) |